

あ、おいしい。

水田農業経営確立対策の確実な推進を図ろう。
直播栽培等新技術の導入と地域性を活かした米づくりを進めよう！

平成12年度



稲作情報

会津版
第4号

平成 12年 7月 7日

「ふくしま新世紀農業・農村確立運動」県推進本部

発行：福島県の米稲作情報編集会議
編集：福島県農業試験場会津支場

基本技術を励行し、安定多収・良質良食味の会津産米の更なる向上を図ろう

1 力月予報（6月30日仙台管区気象台発表）

梅雨前線の活動は不活発。オホーシク海高気圧の影響で太平洋側を中心に低温の時期がある見込み

7月8日～7月14日：日本海側は晴れの日が多いが、太平洋側は曇りの日が多く低温となる見込み。

7月15日～7月28日：日本海側は晴れの日が多いが、太平洋側は曇りの日が多い。平均気温は平年並の見込み。

移植栽培の当面する技術対策のポイント

草丈長く、葉齢進み、葉色は急激に低下

倒伏防止と栄養管理、いもち病防除の徹底を！！

1 生育状況

- (1)試験場内の生育：草丈は平坦部、高冷地とも平年より10%以上長い。平坦地の茎数は平年よりやや少ないが早期に確保された。高冷地の茎数は平年より3～5%多い（表1）。主穂出葉からみた生育は平坦部高冷地とも2～4日進んでいる。平坦部の初星は7月5日、ひとめぼれは8日で幼穂形成始期になり、平年より5日早まった。高冷地のまいひめ、初星の幼穂形成期は平年より3日程度早まる予想である（表3）。このため、減数分裂期や出穂期も早まる予想であり水管理、肥培管理上注意が必要である。
- (2)土壌中のアンモニア態窒素は、6月下旬～7月上旬にかけて急激に低下している（図1）。
- (3)現地の生育：草丈は平年より長い。茎数はほ場間差は見られるが平年並から多い。葉色は前年並から低い傾向である。

2 当面の技術対策

- (1)水 管 理 中干し終了後は、間断灌漑とし根の健全化と地耐力を維持する。
高冷地では幼穂形成期、減数分裂期に17℃以下の気温が予想される場合は、深水管理により幼穂を保護する。水深は幼穂形成期（5～10cm）、減数分裂期（15～20cm）とする。
本年は生育が進んでいるため、早めに生育ステージを確認し実施する。
- (2)追 肥 草丈が長く倒伏が心配されるため、つなぎ肥は原則として行わない。しかし、コシヒカリで幼穂形成期葉色がカラススケール値3以下が予想される場合は、10a当たり窒素成分1.0kg以下のムラ直しを行う。
穂肥は、生育量と葉色により診断し実施する。基準より生育量が大きかったり葉色が濃い場合は、時期を遅らせたり、減量する（表5）。それでも、倒伏が懸念される生育の場合は、倒伏軽減剤の使用も考える。
- (3)いもち病 会津地方の本田でも葉いもちが確認され、6月下旬以降、感染好適日が周期的に出現している。
防除 葉いもちの早期発見に努め、発生を確認したら直ちに液剤か粉剤による防除を実施する。育苗箱施薬や粒剤による葉いもち予防を行ったほ場でも、発生が認められた場合は、散布剤による防除を行う。上位葉での葉いもちは、穂いもちに直結するため防除を徹底する。穂いもち防除を粒剤で行う場合は、出穂10～20日前までに湛水状態で施用する。
- (4)害虫防除 本年はカメムシの被害が懸念されるため、出穂前10日頃まで水田畦畔等の草刈りを実施する。また、蛾類の幼虫による加害が認められるため発生に注意する。

直播栽培の当面する技術対策のポイント

倒伏防止を最優先に！ 除草剤耐性雑草の防除を！！

1 生育状況

- (1)会津支場5月10日播きの生育：草丈は平年より長く、茎数も多い。葉数は平年より進んでいる。（表4）。
- (2)現地の生育：草丈長く、茎数多目である。散播は生育過剰田も散見され、倒伏が懸念される。

2 当面の技術対策

- (1)水管理 倒伏防止のため中干しは長目とし、終了後も間断灌水の入水間隔を開け地耐力を維持する。
- (2)肥培管理 移植栽培より倒伏し易いため、つなぎ肥は行わない。穂肥は移植より減肥しやや遅めとするか中止し、倒伏を防止する。今後の生育によっては倒伏軽減剤の使用も考える。

- (3)雑草防除 アゼナ、ホタルイ、アメリカセンダングサ等が見られる場合はM C P剤やベンタゾン剤で防除する。M C Pを含む剤は幼穂形成期以前に使用する。特に、アゼナ、ホタルイが残草したほ場は、S U剤抵抗性雑草の可能性が高いため徹底防除する。
- (4)いもち病 移植栽培と同様に、ほ場をよく見回り、早期発見、早期防除に努める。

具体的なデータ

表1 7月4日の生育状況(作況試験・中苗・5月19日植)

会津支場(平坦部)					冷 試(高冷地)						
品 種	年次	草丈	茎数	葉数	葉色	品 種	年次	草丈	茎数	葉数	葉色
		(cm)	(本/㎡)	(枚)	(SPAD)			(cm)	(本/㎡)	(枚)	(SPAD)
ひとめ	本年	63.8	745	10.2	41.3	ま い	本年	53.3	672	9.5	41.6
ぼれ	前年	57.9	844	10.2	42.4	ひ め	前年	46.9	760	8.9	39.8
	平年	57.4	821	10.1	43.6		平年	46.2	639	8.9	42.6
	平年比・差	111	91	+0.1	-2.3		平年比・差	115	105	+0.6	-1.0
コシヒ	本年	65.6	714	10.4	39.7	初 星	本年	53.2	732	9.8	39.9
カリ	前年	56.2	636	9.8	40.2		前年	46.1	795	9.6	41.6
	平年	57.8	748	10.1	41.0		平年	45.8	712	9.2	44.3
	平年比・差	113	95	+0.3	-1.3		平年比・差	116	103	+0.6	-4.4

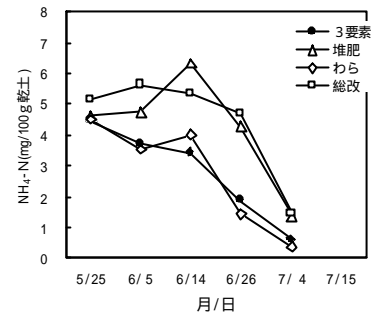


図1 土壌アンモニア態窒素の推移(会津支場地力試験)

表3 幼穂形成始期と減数分裂期の予想

品 種	幼穂形成始期		減数分裂期	
	本 年	平 年		
会 初 星	7. 5	7.10	7.14~7.19	
津 ひとめぼれ	7. 8	7.13	(7.17~7.22)	
支 コシヒカリ	(7.14)	7.20	(7.23~7.28)	
冷 まいひめ	(7. 8)	7.11	(7.17~7.22)	
試 初 星	(7.13)	7.16	(7.22~7.27)	

注：作況試験・中苗・5月20日植

表4 湛水直播生育状況(播種後50日)(会津支場)

年次	播種日	苗立ち数	草丈	茎 数	葉数	積算気温
	(月・日)	(本/m ²)	(cm)	(本/m ²)	(葉)	()
平12	5.10	98	46.4	879	8.9	971
平11	5.10	62	34.5	447	8.0	945
平10	5. 8	127	39.3	889	8.5	944
平 9	5. 9	135	40.6	773	8.1	969
平 8	5. 9	93	32.1	504	8.2	907
平 7	5. 9	156	31.1	579	7.4	917
平年	5. 9	115	35.5	638	8.0	916

注：品 種 ひとめぼれ 平年値 平7~平11年
積算気温 播種日からの日平均気温積算値

表5 生育診断と穂肥の目安

	草丈 (cm)	幼穂形成期		ヨード加 (%)	穂肥の施用時期と施用量	
		葉 色	SPAD502		出穂前日数 (日)	窒素成分量 (kg/10a)
平 ひとめぼれ	65~70	3.5~4.0	37~41	55以上	-24~-20	2.0
坦		4.0以上	42以上		-15	1.5~2.0
地 コシヒカリ	65~70	3.0~3.5	34~39		-15	1.5~2.0
		3.5以上	40以上		-15~-10	1.0
高 まいひめ	60以下	4.0未満	42未満		-24~-20	2.0
冷		4.0以上	42以上		-15	1.0~1.5
地 初 星	60以下	4.0未満	40未満		-24~-20	2.0
		4.0以上	40以上		-15	1.0~1.5

大豆・ソバ栽培の技術対策のポイント

(1)大豆

- 追肥培土 5~6葉期に達したほ場では、2回目の中耕培土を早急に行う(第1本葉節が隠れる程度)。中耕培土時に、コーティング尿素(L Pコート70)を窒素成分で6kg/10a施用する。
- 害虫防除 病害を媒介するアブラムシ類や、高温年に多発するハダニ類を中心に防除を防除する。

(2)ソバ

- 排水対策 ソバは湿害に極めて弱い。特に、転換畑ではほ場の団地化と明渠設置が有効である。
- 種子準備 種子は良く選別し、充実した種子を用いる。10a当りの播種量は、条播で3~5kg、散播は6~8kgである。
- 播種時期 播種適期は平坦部が7月下旬~8月上旬。山間部は7月中旬~下旬である。また、播種期~成熟期の日数は品種により60日~80日程度の幅があるため利用品種により播種期を調整する。